

微笑

風はそよとも吹きません
曇り空の蒸し暑い 今日という時
私は哀しく慰めている
遠く、遥かに、高く、もっと高く
いずれ訪れるであろう死が微笑している
息子たちよ、自由であれ
私は、もう別の生き方を求めない
夏という伝説を受け入れる大地がある
草々が広がっている、そして揺れている
いつの間に風が動き出したのだろう
強い眠りに包まれ、私は奪われてゆく
在る、ということの有機的な質感
私が現在居る場所へ踏み入る者はない
事実、ただの事実が隊列を作っている社会
息子たちよ、もっと自由であれ
私は、もう別の生き方を求めない
あの微笑に奪われてゆく、その他に

(2005.7.17)